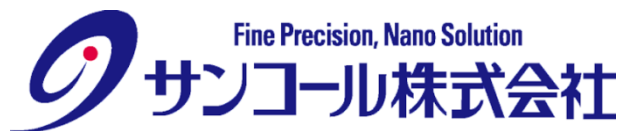


# FY2019 Q1

FY2019 Q1 RESULTS BRIEFING



証券コード 5985

2020年3月期 第1四半期決算報告  
第2四半期累計期間見通し報告

2019年8月7日



**SUNCALL**

RESULTS BRIEFING

INDEX

- 2019年3月期Q1 決算要約
- 2019年3月期Q2 業績予想

# 2020年3月期 第1四半期 決算要約

Financial Summary

# 2020年3月期第1四半期振り返り

- ✓中国景気が米国との貿易摩擦も重なり減速
- ✓内需向け自動車関連製品は堅調
- ✓欧州は新燃費基準影響で自動車販売低調

## 自動車関連事業

### 中国景気減速・欧州新燃費基準の影響大

- 中国・欧州・韓国向け機能材料販売振るわず、影響の大きな京都工場ワイヤー事業が赤字転落
- 最終中国市場納入となる国内販売製品への影響が大きく下振れ拡大
- 日本市場内需向けはおおむね予想通りも前年割れ
- 鋼材価格上昇の販売価格転嫁が進まず

## 電子情報通信関連事業

### 需要低迷による減益拡大に加え、次期モデル開発コスト増加

- データセンター投資停滞の影響によるサスペンション需要悪化は想定以上に下振れ
- サスペンション次世代モデルの開発コスト増加
- プリンター関連、光通信製品は予想通りも前年割れ

## 新規事業

### 情報通信向け製品の立ち上げ遅延

- 情報通信向け新製品が量産遅延
- シャントセンサーやヒューズセンサーの完成車やバッテリー製造メーカーへの拡販とサンプル評価は着々と進行中



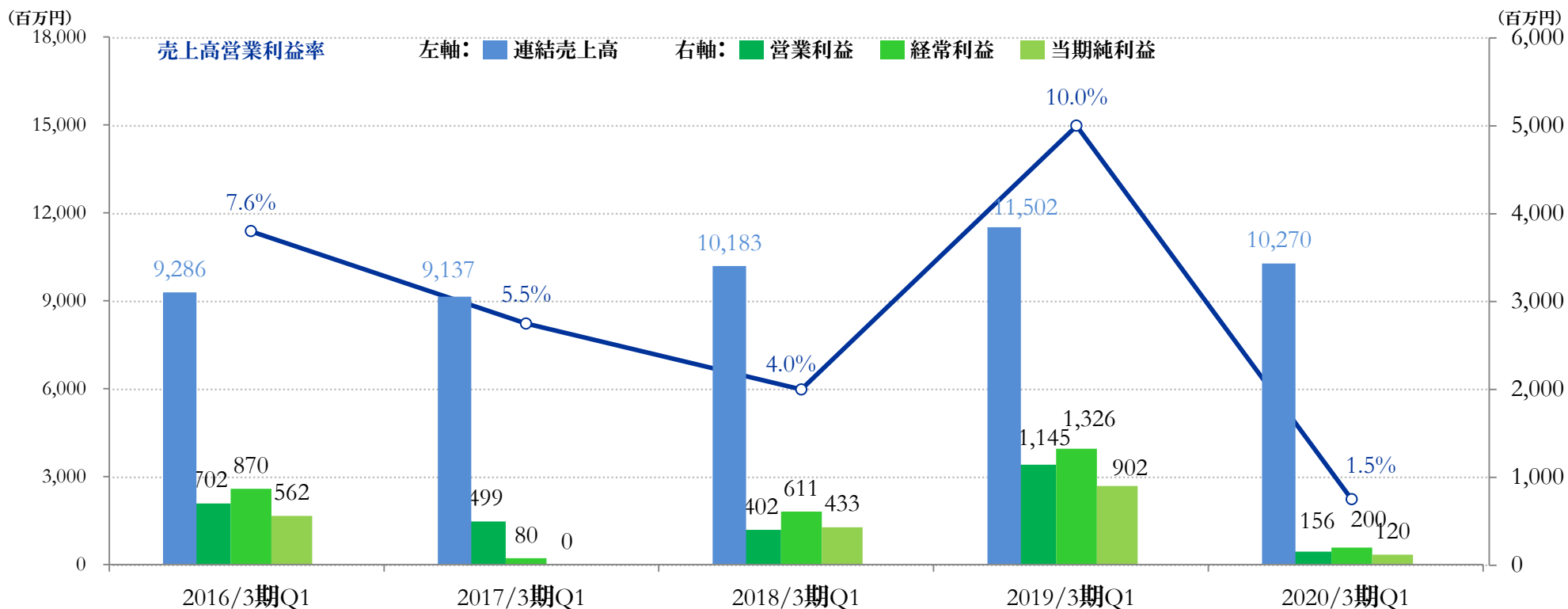
# 2020年3月期 第1四半期 決算要約(連結)

(単位:百万円)	2019年3月期第1四半期	2020年3月期第1四半期		
	実績	実績	前期比増減額	前期比増減率
売上高	11,502	10,270	▲1,232	▲10.7%
営業利益	1,145	156	▲989	▲86.4%
経常利益	1,326	200	▲1,125	▲84.9%
当期純利益	902	120	▲782	▲86.7%

一株当たり利益	28.32円	3.76円	▲24.56円	▲86.7%
平均為替レート	109.07円/ドル	109.90円/ドル		

- POINT
- 売上高 : 前期好調であった自動車・電子情報通信両分野で落ち込み特にHDD用サスペンションが好調であった前期から一転29%減収
  - 営業利益 : 減収要因に加えて、1人当り人件費が前年同期から6%上昇日本での開発費用の先行支出、米国での生産性悪化や中国工場移転コストの増加
  - 経常利益 : 前期為替益89百万円に対して今期は為替損17百万円
  - 当期純利益 : 前期特別損失31百万円に対して今期は投資有価証券売却益ほか23百万円の特別利益

# 2020年3月期 第1四半期 業績推移

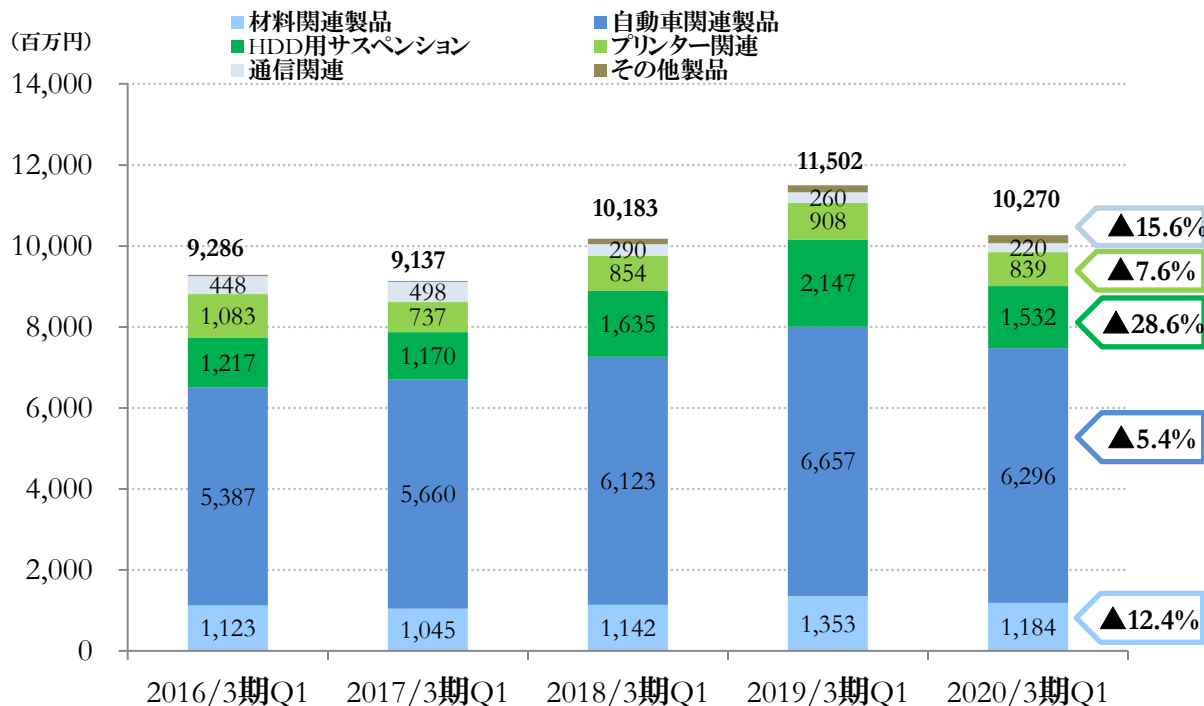


## POINT

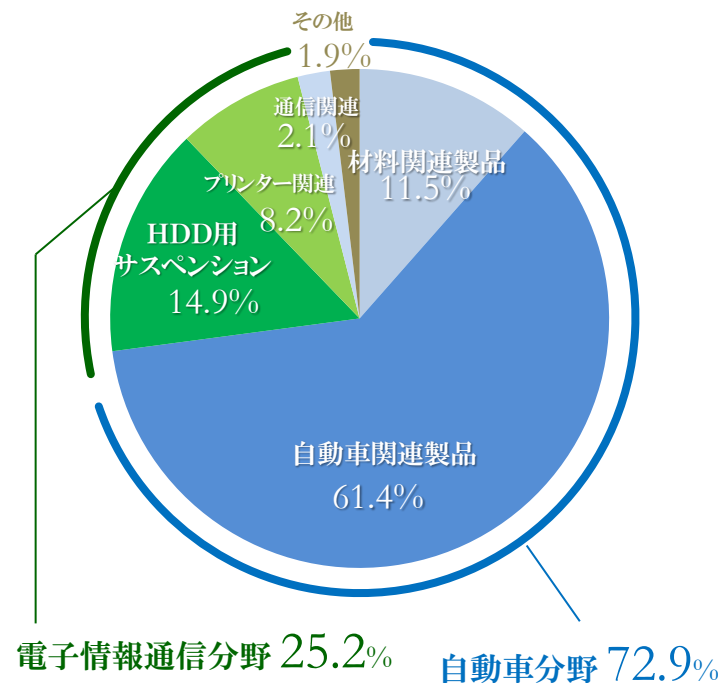
- HDD用サスペンション
  - ： 前期はサスペンション事業が生産能力を超える需要に対応する一方、減価償却が進んだ固定費の少ない生産活動で利益率改善に貢献。今期は前期比約30%減の中、2020年の需要増大に向けた生産体制準備や次期モデルの開発コスト負担増から営業利益率が大きく落ち込む。
- 機能材料
  - ： 欧州・韓国向け販売不振から京都工場 of 材料事業が赤字となり、メキシコでの材料事業の黒字ではカバーしきれず。

# 2020年3月期 第1四半期 製品区分別売上推移

製品区分別連結売上高の推移



製品区分別連結売上高構成比(2020/3期Q1)

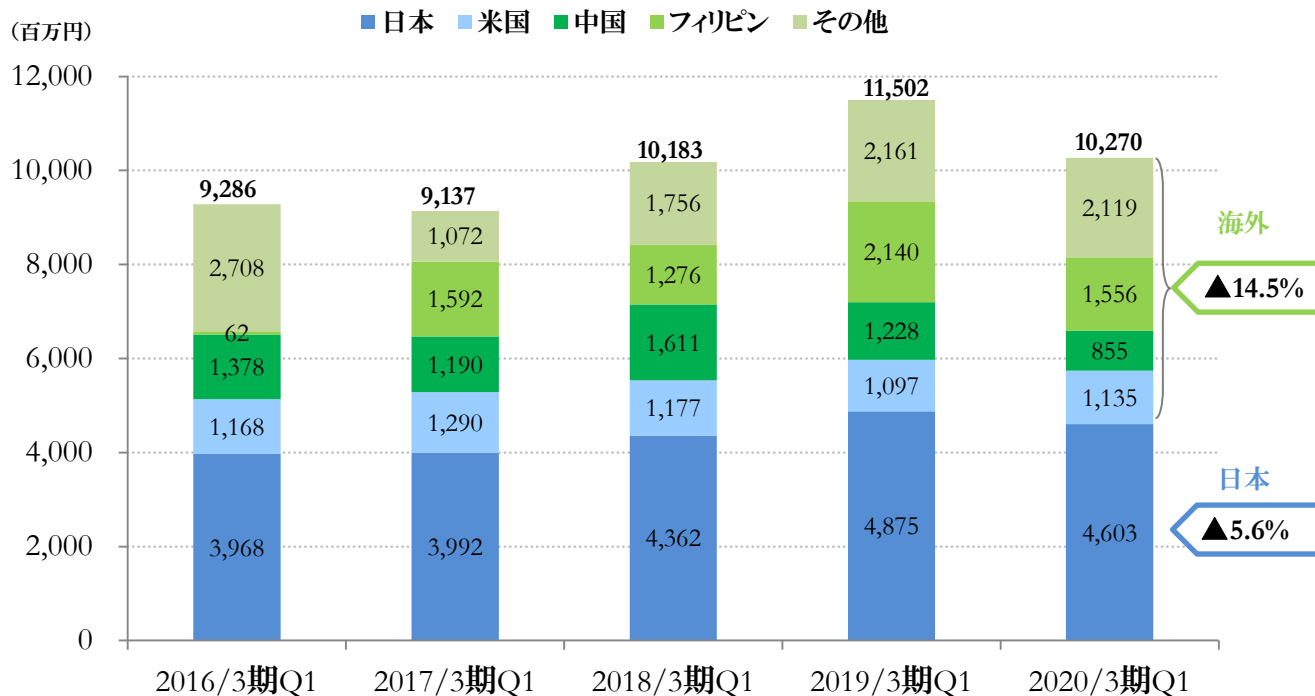


POINT

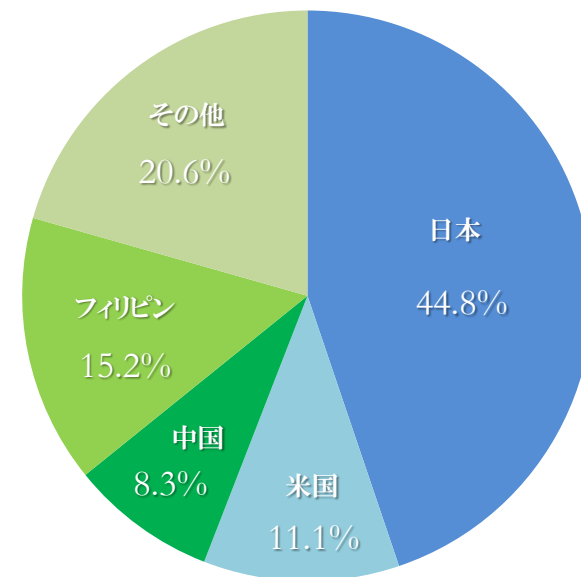
- 全体 : 自動車分野 期初計画前期比▲2.5%⇒実績▲6.6% 電子情報通信分野▲19%⇒▲21.8%
- 自動車分野 : 材料は前期並み計画に対して、京都工場の欧州・韓国向け大ブレーキにより▲12.4%  
自動車製品関連は前期比約3%減の計画に対して、中国市場低迷により▲5.4%
- 電子情報通信分野 : HDDサスペンションは好調な前期から▲20%超の計画から想定以上に下振れし▲28.6%  
プリンター関連、通信関連は前期比減収も、期初計画内

# 2020年3月期 第1四半期 地域別売上推移

地域別連結売上高の推移



地域別連結売上高構成比(2020/3期Q1)



- POINT
- 日本 : 内需向けは概ね想定内、最終中国市場向け製品の落ち込みが大きい。
  - 米国 : 光通信製品が回復基調。自動車関連製品は前期並み。
  - 中国 : 日系完成車向けは概ね想定内も前年割れ、非日系向けが低迷。電子情報通信関連は光通信製品が想定以上に低迷。
  - フィリピン : HDDサスペンションの販売低迷。



# 2020年3月期 第1四半期 連結財政状況

(単位:百万円)		2019年3月 期末	2020年3月期Q1末	
		実績	実績	前期末比 増減額
資	産 合 計	50,481	50,992	+510
	現 預 金	11,861	11,067	▲794
	売 上 債 権	9,472	9,170	▲302
	棚 卸 資 産	5,567	5,810	+242
	そ の 他 流 動 資 産	550	453	▲96
	固 定 資 産	23,029	24,490	+1,461
負	債 合 計	14,201	14,808	+607
	流 動 負 債	10,694	10,813	+118
	固 定 負 債	3,506	3,994	+488
純	資 産 合 計	36,280	36,183	▲96
負 債	純 資 産 合 計	50,481	50,992	+510

原材料 +227

リース資産 +775

借入金 ▲107

未払い法人税等 ▲250

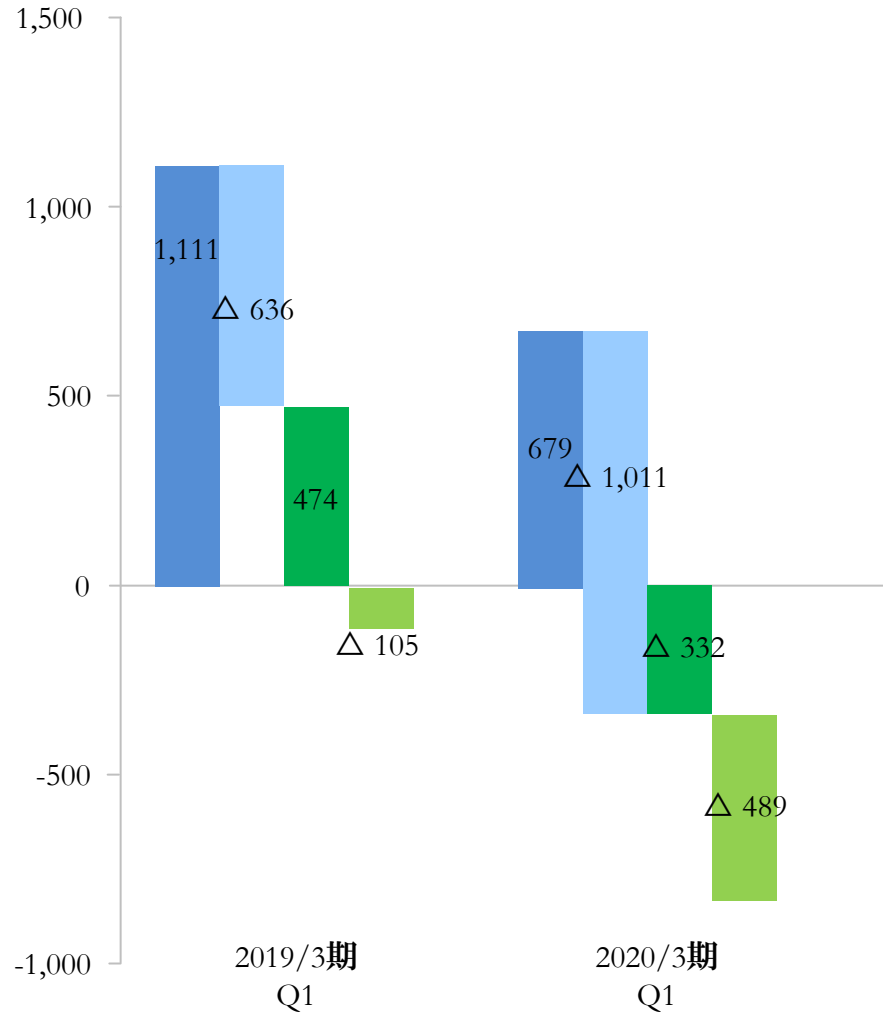
リース債務 +99

未払金/未払費用等 +429

リース債務 +575

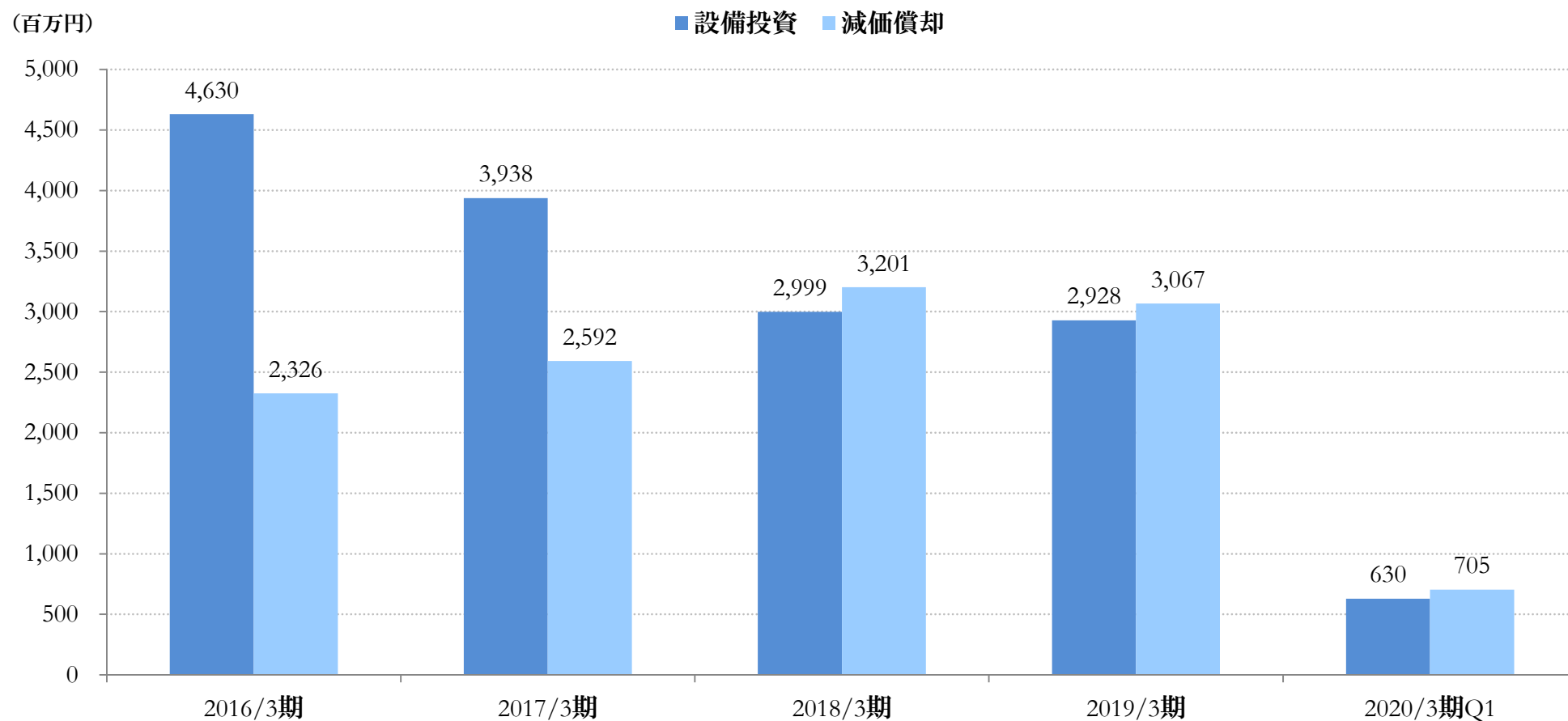
# 2020年3月期 第1四半期 キャッシュ・フローの状況

(百万円) ■ 営業活動によるキャッシュフロー ■ 投資活動によるキャッシュフロー ■ フリーキャッシュフロー ■ 財務活動によるキャッシュフロー



(百万円)	2019年3月期 Q1	2020年3月期 Q1
減価償却費	710	705
有形固定資産取得	550	968
関係会社株式取得	82	0
投資有価証券売却収入	0	44
長期借入金増減	204	▲ 274
配当金支払	265	296

# 2020年3月期 設備投資・減価償却の状況



※上記設備投資額については完成ベース



# 2020年3月期 第2四半期累計期間 業績予想見直し

Earnings Forecast Update

# 2020年3月期第2四半期累計期間 見通し

- ✓中国景気の先行きは非常に不透明
- ✓中国や欧州での自動車販売低迷続く
- ✓データセンター投資は回復基調
- ✓Q2の為替は108円から106円に見直し

## 自動車関連事業

### 中国景気減速の中、持ち直し基調

- 材料は自動車販売低迷により供給過剰バランスがQ3まで継続する見直し
- 京都工場材料事業の赤字幅は縮小基調
- 自動車関連製品の売上はQ1から微増に留まるが利益は持ち直し基調

## 電子情報通信関連事業

### サスペンション事業は下期回復見込み

- HDDプロダクトミックスによりQ2はQ1並みの売上見直し
- 下期数量需要は上期比50%増を見込む
- サスペンション生産能力増強や次期モデル開発に係る投資が進行し利益押し下げ
- プリンター関連は予想通りの進捗
- 通信関連が上向き基調にあるが下期不透明

## 新規事業

### 新製品の立ち上げ遅延影響大

- 情報通信向け新製品の量産は下期へ遅延
- 立ち上がり遅延による年間売上および利益の下振れ影響拡大
- 2020年立ち上がり欧州向けシャントバスバーの量産獲得

# 2020年3月期 第2四半期累計期間 決算見通し要約(連結)

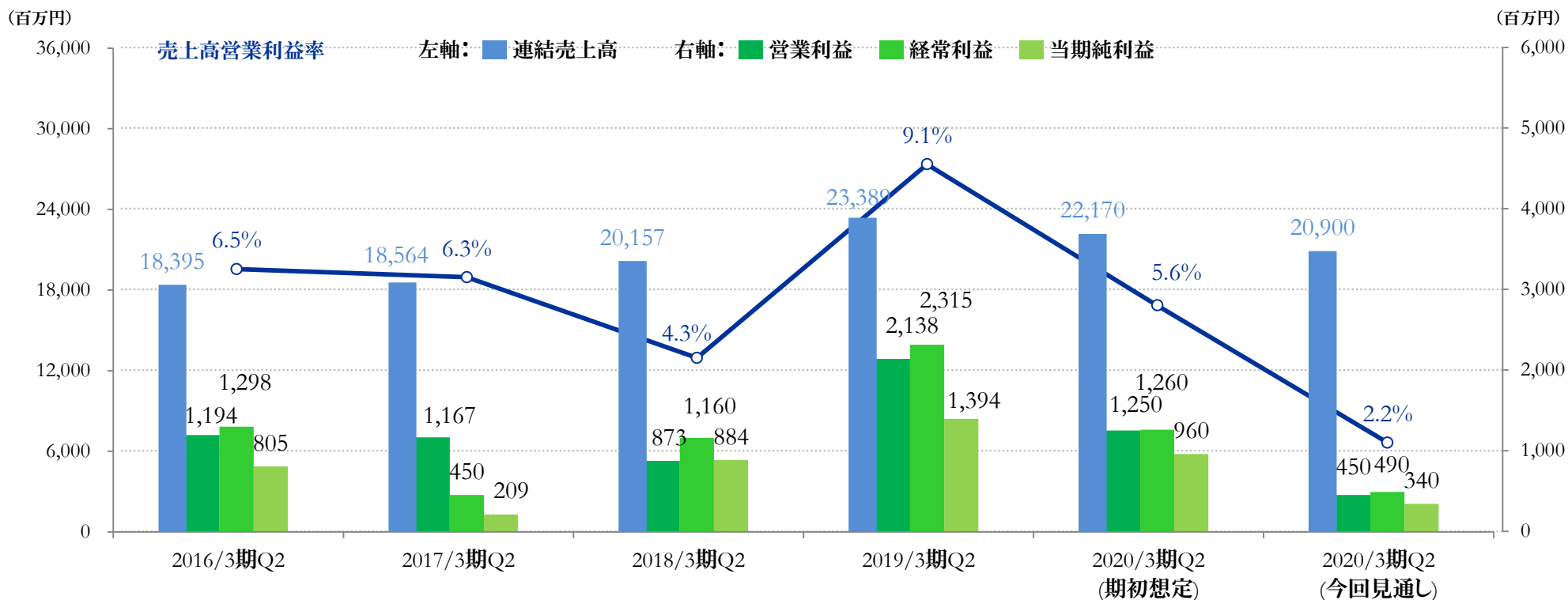
(単位:百万円)	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期					
	実績 (C)	前回発表予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 B-A	増減率	増減額 B-C	増減率
売上高	23,389	22,170	20,900	▲1,270	▲5.7%	▲2,489	▲10.7%
営業利益	2,138	1,250	450	▲800	▲64.0%	▲1,688	▲79.0%
経常利益	2,315	1,260	490	▲770	▲61.1%	▲1,825	▲78.8%
当期純利益	1,394	960	340	▲620	▲64.5%	▲1,054	▲75.6%

一株当たり利益	43.73円	30.07円	10.64円	▲19.43	▲64.5%	▲33.09	▲75.6%
平均為替レート	円/ドル	108円	107.95円				

- POINT
- 売上高 : HDD用サスペンションと精密機能材料が期初計画からの落ち込みが大きく、前年同期比11%の減収見通し
  - 営業利益 : 精密機能材料の赤字縮小や自動車関連製品の採算性改善は進むが、減収要因に加えて生産能力増強や次世代モデルの開発費用負担などあり、前年同期比78%の減益見通し



# 2020年3月期 第2四半期累計期間 業績推移

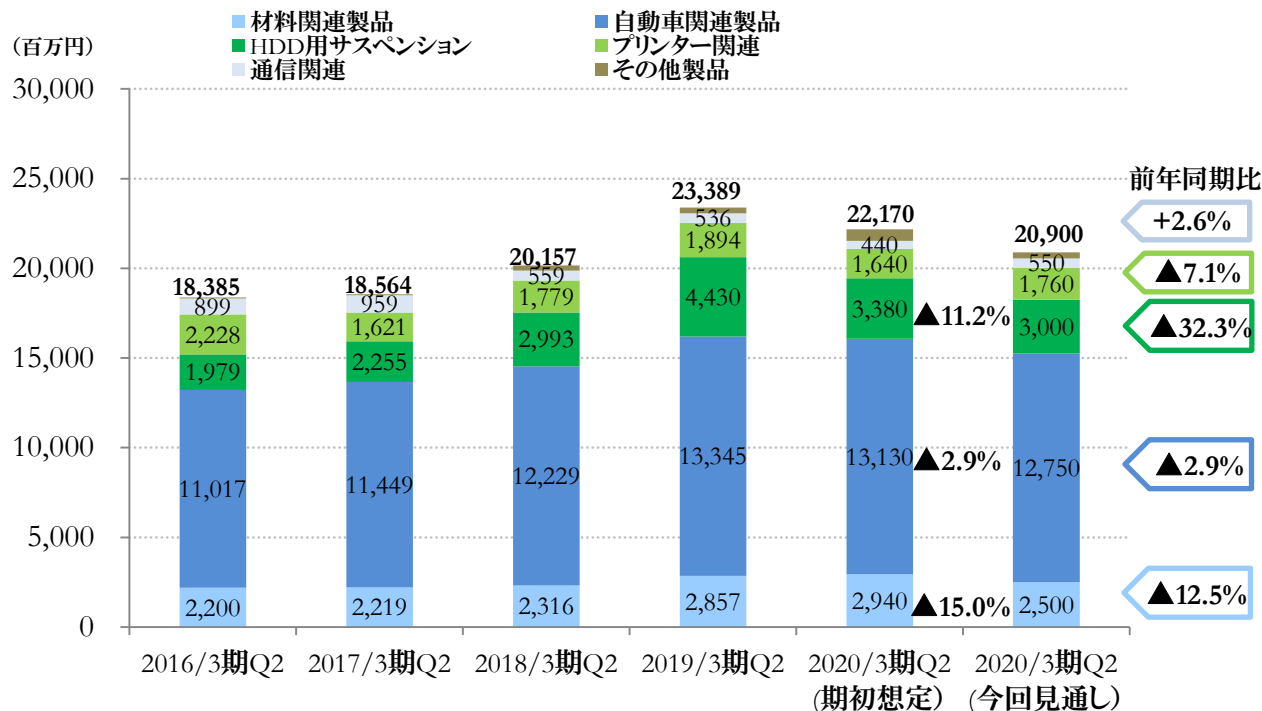


## POINT

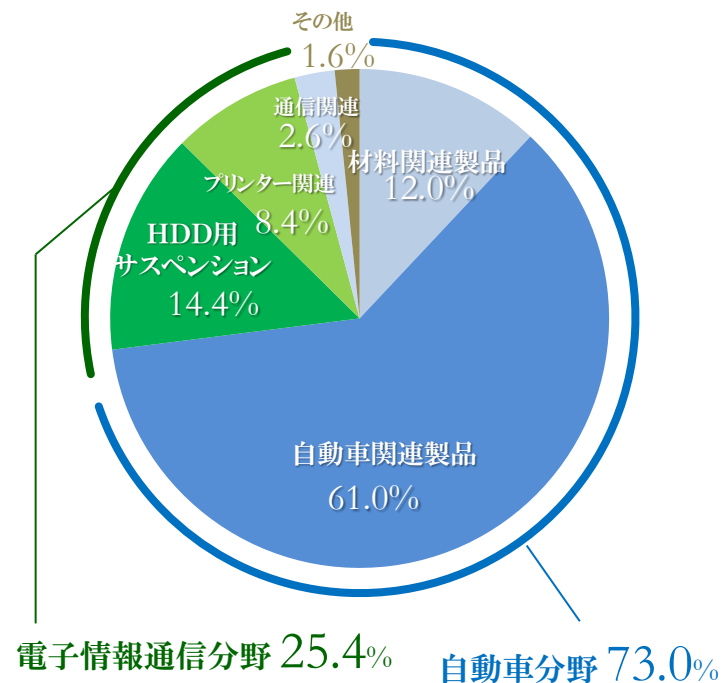
- HDD用サスペンション : HDDプロダクト・ミックスによりQ2もQ1並みの売上水準。需要増に向けた生産能力増強と次期モデルの開発を急ぐが、これらに係るコストは増加。
- 機能材料 : 低調な材料需要は続くが採算悪化には歯止め。下期は回復基調を見込む。
- 情報通信向け新製品 : 上期量産開始予定が認証等の遅れにより下期にずれ込む見通し。

# 2020年3月期 第2四半期累計期間 製品区分別売上推移

製品区分別連結売上高の推移



製品区分別連結売上高構成比(2020/3期Q2)



POINT

- 全体 : 自動車分野 期初計画前期比▲0.8%⇒見通▲5.9% 電子情報通信分野▲20.4%⇒▲22.6%
- 自動車分野 : 自動車関連製品のQ2はQ1から微増、材料関連のQ2はQ1から10%増を見込む
- 電子情報通信分野 : HDDサスペンションのQ2はQ1から更に4%下振れ  
プリンター関連、通信関連は需要上向き傾向

## 【ご注意】

本日の説明および配布資料には、当社の事業に関する業績見通し、将来の計画・方針等に関する記述が含まれていますので、株券等の取引を行う際には、金融商品取引法その他の法令の遵守をお願い申し上げます。また、将来予想は、現時点で入手できる情報に基づき作成しており、既知または未知のリスク・不確実な要因等を含んでいるため、当社の実際の業績、事業活動や財政状態が、将来予想の内容と大きく異なる場合がありますが、そのような場合であっても当社は、将来予想の内容を更新または修正して公表・開示する責任を負うものではありません。

